談話室

イタリア紀行

「農泊」を推進するため、先進地であるイタリアを日本ファームステイ協会の会員、農林水産省の担当者と一週間の日程で訪れた。ボローニャで常設の農業展示会であるフィーコイタリアを見学した後まずはアドリア海に近いマルケ州ペーザロのアルベルゴ・ディフーゾ(分散したホテル)に向かった。丘の上にあった城砦集落をリノベーションした宿(元の建物は1687年に建造された旨レンガに刻まれていた)に二泊、屋外のレストランで月蝕を体感しながらの夕食、ハンニバル、チャーチルの名前も登場する街の歴史探訪、小鳥の鳴き声で目覚める朝、地元の中学生のダンス芸術鑑賞と盛りだくさんの体験をさせてもらった。その後フィレンツェの中心街をスキップしてトスカーナ州アレッツォ近郊のアルベルゴ・ディフーゾでアグリツーリズモを実践している宿に一泊した。その宿は1580年代のメディチ家の一族の荘園に起源があったが打ち捨てられていたものを50年ほど前から今の経営者夫妻が取得、オリーブ生産、畜産酪農と同時に邸を快適な空間に改装しアグリツーリズモに積極的に取り組んできた。六甲山を少し緩くしたような山に向かって登っていく斜面に段々畑と農家が点在する日本にもありそうな風景の中で、快適な宿、地元食材に徹底的にこだわった食事に大いに満足した。夕食後は本格的スペインギターと歌曲のコンサートまで満喫。てんこ盛りの日程の割に時間の流れはあくまでゆったりたおやかであった。

イタリアがスローフード、アグリツーリズモに国民運動と言って良い熱心さで取り組んできた背景には農業の危機、地方の衰退がある。1960年代トスカーナ州で始まり1985年に「農業を守るための最低限の人口の保持」「地域の自然環境保全」を目的にアグリツーリズモを国として推進することが法定化された。イタリアは160年前まで国民国家としては存在せず、各地域に領邦国家が分立し、地域独自の経済、文化を花開かせていたのである。そのため国民国家として統一された現在でも地域ごとの独自性が色濃く残っている。しかし1950年代から始まるイタリア経済の高度成長は都市の膨張の反面農業農村の活力を奪い、このまま放置すれば農業が支えてきた地域独自の風習、文化の崩壊を招くのではという危機意識が国民の間に広く共有されるようになった。そこで登場したのがアグリツーリズモであった。ツーリズモというから観光業の一形態のように受け取られるか

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

もしれないが、あくまでも農業の持続性を支える農業中心の理念であり方策である。トスカーナ州の担当者の説明によればアグリツーリズモと称するには労働時間の過半が農業に向けられていなければならないという制約があるとのことであった。耕地面積や家畜の飼養頭数から一年間の宿泊の受入人数の上限が決まってくるので、それを増やそうと思えば農業経営の規模や集約度を上げる必要がある。ただ、イタリアでは年中あくせくと働くことは好まれず季節営業の所が多く、経営者自身も長期休暇を取りスローライフを実践しているようであった。こうしたアグリツーリズモを国も地方行政も積極的に後押ししており、ツーリズモ部分の所得を大幅に圧縮するという税制上のメリット措置が講じられているとのことであった。

もう一つのイタリア発祥の考え方がアルベルゴ・ディフーゾである。直訳すると分散したホテルとなるが、1976年のイタリア北部のフリウリ地震で廃村の危機にあった小さな美しい村々に再び息吹をという伝統集落再生の理念であり運動として始まったものである。現在アルベルゴ・ディフーゾ協会の会長であるジャンカルロ・ダッラーラ教授が提唱したもので、過疎化した集落内の空き家を客室に見立て、受付、レストラン等のサービス機能を点在させて連携する地域経営の仕組みを取り、観光客に地域を巡り溶け込んで滞在してもらうことを狙っている。近代的リゾートホテルの対極にある取組みと言って良いだろう。

日本で最近「農泊」を推進しようと機運が盛り上がっているのは地方消滅の危機感を背景とした「地方創生」が叫ばれているからである。官民挙げて500の農泊地域を作ろうというのがスローガンになっているが、イタリアに行ってみてその推進に当たって忘れてはならない観点に気付かされた。その第一が徹底した地域の伝統、文化、歴史へのこだわりである。新しい建物は建てない、景観の維持に最大限配慮する、地元食材比率を極限まで高めるという具体的実践につながっている。第二が地元での経済循環、社会的参画の重視である。外から与えられるのではない内発的な地方創生には欠かせない点ではなかろうか。

ゲーテの思索もイタリアを旅して深まったとのこと、日本の農泊にも原点の再確認と深まりを期待したい。

（(株)農林中金総合研究所 理事長　皆川芳嗣・みながわ よしつぐ）

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/